

私たちは考えます **岡山版 Beyond SDGs**

みんなで作る

Shared Well-being Goals (SWGs)

—「開発・成長社会」から「共生・成熟社会」への転換—

1. 岡山版ビヨンド SDGs について

「岡山版ビヨンド SDGs」は、持続可能な社会を目指して、これまでの歴史がつないできた経緯も踏まえた、私たちの 2031 年以降における「約束」と言えるものです。私たちは、産学官民みんなで「岡山版ビヨンド SDGs」を創り、発信・実行していきます。私たちが提案する「岡山版ビヨンド SDGs」は、SWGs(Shared Well-being Goals:共生ウェルビーイング目標)を指標とします。「生命」を最重要キーワードとし、自然と人間の一体性(日本の自然観)や、成長優先社会から共生・成熟・融合社会への転換などを重視します。2025 年8月21日の「未来わくわく SDGs フェスタ」(イオンモール岡山)をキックオフにして、幅広く周知や意見聴取を行い、岡山版ビヨンド SDGs を策定していきます。

「岡山版ビヨンド SDGs を考える会」

会長 那須保友(岡山大学学長)

2. これまでの SDGs を総括して生じた基本的な問い(課題)

(1) 私たちは今後どのような世界を望み、どのような社会を目指すか？

- ①SDGs の思想的基盤は、西欧近代化を進める「人間中心主義(humanism)」、「心身二元論」に偏重しているのではないか？
- ②AI などの急激な進展によって、機械が人間を支配する特異点を視野に入れるべきではないか？
- ③人間・生物全体の命の共通性を重視した「生物皆兄弟」の発想が必要ではないか？
- ④全ての人々が共に未来創造に挑み続ける世界を創っていくにはどうすれば良いか？

(2) 今の地域社会や地球環境をどのような状況にあると認識すべきか？

- ①一人ひとりの個人的な努力でどれほどの改善が図れるのか？
- ②今の地域社会や地球環境についての基本的認識が必須ではないか？
- ③自然、環境および開発の相互関係を重視すべきではないか？
- ④今の私たちの生活スタイル(大消費・大廃棄など)を続けるには地球一つでは到底足りないのではないか？
- ⑤新たな「開発」の定義として、「社会を変革すること」つまり、「人々を幸せにするための諸条件をさまざまな角度から整える行為」として進めるべきではないか？

(3) 「自分にできることをする」という個人ベースの分断社会から、協働・共創などを重視して、新たにどのような社会を目指すべきか？

- ①他者を蹴落としても自らが優位に立とうとする競争社会が容認され続けられるか？
- ②「自由と責任」「自主自立と協働共生」、などの連携・統合を進めるべきではないか？

(4)SDGsにおける「SD (Sustainable Development:持続可能な開発) の考え方に基本的な問題はないか？

- ①「開発」を全世界統一して最優先することに問題はないか？「開発」の前提にある進歩史観(人類社会は日々進歩していると考え)に基づいて、進歩が遅れている国々や人々は、より進んだ国々・人々の状況を単一的に目指さねばならないのだろうか？
- ②人間の都合優先の欲望の充足を肯定する成長路線を進める開発でいいか、成熟路線(欲望を縮小した、社会成熟の範囲内での適度の成長)を前提とすべきではないか？
- ③15年間という短期目標ではなく、30年以上の中長期目標を重視すべきではないか？

(5)2030年を達成期限とする17のゴール、169のターゲットが提示されているが、個々のゴールとターゲットの検討に終始し、「持続可能な世界を実現する」という全体的到達目標にどれほど近づいているかが分からないのではないか？

- ①ゴール・ターゲットの質と相互関係が重視されるべきではないか？
- ②持続可能な世界を実現するには、少なくとも「経済」・「社会」・「環境」の3つの要素のバランスが取れていないと実現できないのではないか？

(6)SDGsは社会課題に偏重していて、自然(人間、生物などすべてが一体化したもの)・命、芸術・文学などの感性・精神的豊かさが欠けているのではないか？

- ①歴史的・文化的・社会的事象を通して人類が経験してきたすべての個別的課題に底流する共通課題認識をどのように皆で共有していくべきか？

(7)今までのESD/SDGs実践や科学的・社会的研究成果を踏まえて今後のあるべき姿を既成のテーマとして提示するとともに、自分またはグループが目指したいと思う具体的目標を設定して、主体的に自由探求していくことがセットで進行していくべきではないか？

(8)現代社会の矛盾にどのように対処すべきか？たとえば、一般市民が殺人を犯すと重罪に問われるのに、国家と国家が争い、多くの人々の命と暮らしが奪われても誰も罪に問われないのはなぜか？

(9)2050年度までの達成目標と評価基準を明確にすべきであるが、そもそも世界中の誰もが認める「総体としての理想郷」は存在するものなのか、一つの既成目標達成のために、目標定量化・数量化した数値目標に偏るべきではないのではないか？ 人類共通の目標と自己や地域の個別的ウェルビーイング目標の二本立てで考えるべきではないか？

(10)今後数十年間を生きる主要層となる、今のこども世代がどのような問題意識と将来像を持っているかを、多くの個人・団体とともに議論を重ねて「ビヨンド SDGs」をこどもを真ん中にして描いていくことが急務ではないか？

3. 基本理念

前項に記したこれまでの SDGs を総括して生じた基本的な問い(課題)を踏まえて、私たちは「岡山版ビヨンド SDGs」に求められる基本理念を以下のように考えています。

(1)「開発・成長優先社会」から「共生・成熟優先社会」へ

⇒「成長・分析・分離・分断・競争・利己性」中心から「成熟・統合・融合・共生・循環・利他性」中心へ

(2)領域別目標(ゴール)設定から、包括的課題テーマ別目標(ゴール)設定へ

(例)「貧困をなくそう」・「飢餓をなくそう」→「生物の命を大切にしよう」

(3)個人(「わたし」)ベースの社会から「私たち」の共創社会へ

「アソビ」をコアとした「みんながウェルビーイングに」・「みんなで創る共生ウェルビーイング社会」へ

※「アソビ」…自由に楽しみワクワクしながら探究し創造すること

「ウェルビーイング」…身体的・精神的・社会的に良好な状態

(4)人間中心主義から自然統合主義へ

「自分(=且然の公身)」、「人間は生態系の一つ」であるとする、自然・人間一元論に基づく

(例)「四方よし」(己よし、ひと(他者)よし、世間よし、自然よし)の4軸で考える

(5)科学的・論理的思考の偏重から、直観的・創造的思考も重視した「総合知」へ

(例)「科学技術とリベラルアーツ・ヒューマニティ(人間理解を深める教養教育)の交差」

(6)「ブレイクスルー思考」重視へ

二分思考(善悪、肯定・否定、など)を越えて、すべてのことにプラスの意味を見出していく

※「ブレイクスルー思考」は、理想の未来像から発想する創造的な問題解決法

SDGs が具体的な未来目標から逆算して実現可能な計画を構築・実行している点で異なる

(例)「心魂身の三位一体」

(7)現状認識に基づいて、本質を問う「哲学的思考・対話」重視へ

「生きるとはどういうことか?」、「地域に根差した“ローバル”(Lobal)社会とは何か」など

※ローバル社会…地域性を重視しながらも世界とつながる社会

(例)「自分創生学」に基づく「地域・世界創生学」

(8)「みんなでつくる SWGs」中心へ

世界共通の「与えられた SDGs」中心から、各国・地域に合った目標を達成していく

「現状是認型の未来予測法『フォーキャスティング』とゴール(未来)志向型のマイルストーン(道しるべ)を描く『バックキャスティング』の併用)

(9)地域課題とグローバル課題との有機的解決へ

「ローバル(Lobal)」人財(ローカルに根差してグローバル社会で活躍できる人財)育成

(10)「こどもまんなか社会」の実現

こどもが生来持つ「こども性」を人間発達の中核に据え、大人などの他の人間や自然・社会・文化環境がこどもを包み育む

4. 目標(ゴール)と設定課題

「岡山版ビヨンド SDGs」は、SWGs(Shared Well-being Goals:共生ウェルビーイング目標)を指標とします。各目標には、各自が自由に設定できる自由設定課題の項目を設けます。

【目標(ゴール)1】 生物の命を大切にしよう

- ①人間を含むすべての生物の命の深いつながりを重視し、生きることの尊厳と意義を深く理解する
- ②自然の中の「自分」の存在を見つめ、自然への畏敬の念と「自分」の尊さに目覚め、生きる指針を見出す
- ③「人間の安全保障(人々の命と暮らしと尊厳を守り、感謝すること)」を目的とし、自らを守り自然・人間が共生するための力をつける
- ④貧困・飢餓を乗り越えて、命の灯火をともし続け、よりよく生きる道を探っていく
- ⑤知横断性の基本となる「哲学」(真、善、美、聖に関わる「人間とは何か」「生きるとは何か」「善悪とは何か」「天人合一」(熊沢蕃山)などの本質的な問いを基盤に生きる
- ⑥善悪や肯否といった二分法的な見方を超えて、否定的な経験や疑問をも学びや創造のきっかけとして受けとめ、困難を成長の力へと転換していく「ブレイクスルー思考」を培う
- ⑦(自由設定課題) :

【目標(ゴール)2】 文化・芸術を深めよう

- ①精神文化や芸術活動を通して、既成概念にとらわれず、自由な発想で問題解決やイノベーションを促進する
- ②音楽や演劇などの社会と深く結びつき、社会に生きる人々と生で響き合う芸術・表現活動を大切にする
- ③Science & Technology と Liberal Arts & Humanities の交差・両立を目指し、「総合知」の活用に基づいて、文理横断・文理融合の教育や人材育成を進める
- ④(自由設定課題) :

【目標(ゴール)3】 経済・社会・環境のバランスを取ろう

- ①経済力や開発の程度によって類別化するのではなく、必要な成長力と心の豊かさを含めた成熟度を中心に求めていく
- ②利潤追求の偏重から脱皮して、高い倫理性を備えた公益追求を同時に進める
- ③社会的企業やボランティア活動などを通して社会の発展に寄与していく
- ④経済・社会・環境のバランスによってウェルビーイング社会を築く
- ⑤(自由設定課題) :

【目標(ゴール)4】 公教育・生涯学習を進めよう

- ①主体的に学ぶ「学育」と学び合う「共育」を重視し、学びの喜び(「アソビ」)をコアに展開する
- ②自分自身と社会の歴史を生み出す「学習権」を保障し、すべての人に教育と医療サービスを保障する
- ③AI などの進歩によって人間の本来の存在意義が問われる中、いかに共存し、人間らしく生きるかの具体像をつかむ
- ④人々や社会全体を幸せにする「ウェルビーイング」を基準とした地域共生教育を推進し、「ローバル」人材を育成する
- ⑤一人の一步が社会を変え、学び合い助け合いが社会を前進させることを実感できる場をつくる
- ⑥(自由設定課題) :

【目標(ゴール)5】 公平・衡平※と多様性を尊重しよう

- ①人や国の不平等をなくし、人として平等に尊重され、ジェンダー平等や一人ひとりの多様なあり方が追求される社会を実現する
 - ②それぞれの国・地域が抱える課題、可能性、置かれている状況、価値観は千差万別であることを前提として、人類共通課題と地域課題を区別して進める
 - ③すべての人が人類社会の一員として協働し、未来を見つめ、互いに共感し合える共通の基盤、未来の夢を創り上げる
 - ④本音と建前を対立させず、建前に近づける本音を育み、互いの苦痛や不快感の感じ方の違いを前提として、摩擦を和らげる共感力を深め合う社会を築く
 - ⑤(自由設定課題) :
- ※公平…すべてを平等に扱う、衡平…状況に応じて釣り合いを取る(妥当な扱いをする)

【目標(ゴール)6】 豊かな自然環境をみんなで創ろう

- ①地球環境の破壊を助長する経済発展中心のエネルギー消費を改め、生活の質を高める
- ②気候変動や地球温暖化の引き金になっているあらゆる要素を抽出して自然環境整備優先の考え方を貫く
- ③森林伐採などによる動植物の絶滅の危機を打破する
- ④(自由設定課題) :

【目標(ゴール)7】 こどもまんなか社会を実現しよう

- ①子どもとしての独自の本質、すべての子どもが備えている素晴らしい天賦の才能を切り拓けるよう社会全体で後押しする
- ②全ての子どもが権利を保障されながら、幸せに暮らし、健やかに成長できるよう、子どもの意見聴取に基づいて政策に反映していく
- ③学校・家庭・地域が連帯協働して子どもを育て、子どもたちが心豊かに暮らせるウェルビーイングな地域を創る
- ④子どもたちが人類社会の未来に関心を持ち、自分たちの問題として受けとめ、自分自身の役割について問い、考え、話し合う
- ⑤すべての子どもが、安全で安心して過ごせる居場所を持ち、さまざまな学びや体験活動、遊びの機会を保障する
- ⑥個人及び地方自治体が、自ら「こどもまんなか応援サポーター」を SNS で発信し宣言する
- ⑦(自由設定課題) :

【目標(ゴール)8】 すべての人に生きがいと生きる喜びを

- ①フレキシブルに思考を修正して生かす「アソビカ」によって自分らしく幸せに生きていける社会を創る
- ②すべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい生活を促進する
- ③OECD(経済協力開発機構)が策定した「より良い暮らしに関する指標(Better Life Index)の地域版に基づいてよりよい暮らし計画を立てて実践する
- ④すべての人に健康と福祉を保障できるようにする社会的活動を推進する
- ⑤(自由設定課題) :

【目標(ゴール)9】すべての人の人権を尊重して平和な社会を築こう

- ①国・地域などを越えた「人類社会」全体として望ましい未来の姿を描き、まちづくりに生かす
- ②世界各地で起きているさまざまな対立と分断の実情を改善するため、時空を超えた想像力を発揮し、パートナーシップに基づいて平和の種をまき育てる
- ③経済活動などによって社会や環境が悪化していくことを防ぎ、{動く人々などすべての人々の人権、安全や健康を守る
- ④自分とは違った人を排除することなく共生していく社会を目指す
- ⑤(自由設定課題) :

【目標(ゴール)10】ウェルビーイングなまちを創ろう

- ①包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)でウェルビーイングな共生社会を実現し、「エイジェンシー(人生・社会創造力)」を育む
- ②市民による参画型社会にあって、それぞれの地域の持っている潜在力を最大限に生かす協働のまちづくりを進める
- ③過疎や高齢化で日常生活の維持が難しくなった集落の存続のあり方を検討し、すべての人に幸せを生み出す方策を探る
- ④一人ひとりが住んでいる地元を大切に、生涯学び続け、地域に根差しながら国際的視野をもって生きる人(「グローバル人(地域発国際人)」)を育てる
- ⑤30年後のウェルビーイング社会像を持って、各国・地域ごとに「地域総ウェルビーイング度」を算出して、幸せでないと感じる点を改善していく
- ⑥気候変動への対応には、個人努力を超えた社会全体の改革を進め、すべての人が完全に満足しなくても「不満を最小限に抑えた合意」を受け入れる柔軟性を持ち、さらに政治参加を日常的な営みとして根づかせる仕組みを築く
- ⑦(自由設定課題) :

【ご意見ご提案等を下さい】

あなたが望む 2031 年以降の未来像はどんなもので、そのためにビヨンド SDGs にぜひ入れたいことは何ですか？「岡山版ビヨンド SDGs(SVGs)」(案)について、ご意見ご提案等を頂ける方は、下記の当会事務担当までE-mail で送って下さい。皆さんからのご意見ご提案等をお待ちしています。

「岡山版ビヨンド SDGs を考える会」

会長 那須保友(岡山大学学長)

事務担当(池田満之)E-mail…ikemin@s.okayama-u.ac.jp

〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1 岡山大学総務部総務課秘書室気付